

〈公開シンポジウム〉 曹洞宗教団の展開〜下野山川長林寺を中心として〜

はじめに

仏教文化研究所主任 矢島 道彦

本日はようこそおいいただきました。私は仏教文化研究所主任の矢島でございます。

本研究所では平成七年の創設以来、毎年この時期に年一回の公開講演会を開催してまいりましたが、昨年度は学校法人総持学園の創立八十周年と研究所の創設十周年を記念いたしまして、「総持寺教団の展開」に関する公開シンポジウムを開催いたしました。

初めてのシンポジウムでしたが、ご好評をいただきましたので、今年度も同じシンポジウムの形をとらせていただきました。テーマにつきましても、曹洞宗の教団史的な展開に関するものをと考えまして、ご案内の通り、本日はとくに足利市の長林寺が所蔵する歴史資料に関する問題を取り上げることといたしました。この寺院の資料研究は、平成十一年度から本学文学部文化財学科が受託して行なってまいりましたもので、この程調査研究が一段落して、まもなくその成果が出版されることとなりました。そこで、この機会に、これまでの研究の成果を先生方からご発表いただくこととした次第でございます。

福聚山長林寺は、中世戦国期に常陸の国に創建され、その後近世になって下野に移りますが、今日まで五百年余

りの命脈を守ってまいりました。今回初めてこの長林寺の寺史について本格的な調査研究が行われたわけですが、いくなれば、曹洞宗の一地方寺院である長林寺の歴史資料が、初めて歴史学という学問の俎上に載せられたわけでございます。そして、その研究調査の過程において、いろいろ新たな事実が発見されたり、また問題点もいろいろ出てきているようでございます。本日はそうした研究の成果についてご紹介いただくとともに、いろいろな問題点についてディスカッションをお願いしたいと存じます。

本日のシンポジストは、長林寺史の調査研究に関わっていただいていた先生方の中から、とくに四人の先生方をお招きいたしました。四人と申しましたが、本日司会進行をおつとめいただく尾崎正善先生も、研究に中心的な役割を担っていただいていたので、正しくは尾崎先生も含めた、五人の先生方によるシンポジウムということになります。

それでは、このシンポジウムに先立ちまして、本研究所の所長をつとめていただいております学長の柳澤慧二先生からご挨拶を賜りたいと存じます。